

福祉サービス第三者評価

評価結果基本情報

評価年度	平成 25 年度
サービス名称	認可保育所
事業所名称	バオバブ保育園ちいさな家
評価機関名称	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
評価者	修了者 No.H1002063 修了者 No.H0702006 修了者 No.H0702077 修了者 No.H0902065
評価実施期間	2013 年 9 月 1 日 ~ 2014 年 3 月 31 日
事業評価実施期間	2013 年 9 月 2 日 ~ 2014 年 3 月 31 日
利用者調査実施期間	2013 年 9 月 2 日 ~ 2013 年 10 月 24 日

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

事業者の理念・方針、期待する職員像

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など） 1)子どもが安心して毎日過ごす中で心身ともに健やかに育っていく場となる 2)保護者が安心して子どもを預けることができ、仕事と子育てを両立していける場となる 3)子どもへの思いや子どもの姿を保護者と共有し、共に育てる関係となるよう努める 4)職員同士が保育への思いや情報を共有し、協力して仕事を進め、保育者として共に育っていけるように努める 5)園が持つ機能や設備を地域の子育て家庭にできるだけ開放し、地域の子育てに貢献できるように努める
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 子どもの側、保護者の側に身をおいて考え、思いを汲み取り、浴おうとする。保育の過程を振り返り、同僚とも話し合い、次はどうあったら良いかを構想しようとする。自らを磨き向上していこうとする。職員集団の一員として自らの位置を理解し、園全体の向上を目指そうとする。
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 保育園が子どもの幸せ、子どもの健やかな育ちを守る砦であること、一人一人がその砦を守る一員であるとの意識を明確に持って、その役割を果たしてほしい。その役割を果たすための組織的努力、個人的努力はどうあるべきかを常に考え、積極的に行動してほしい。

全体の評価講評

特に良いと思う点

- 日々をゆったりとくつろげる環境の中で過ごし、多彩な体験と一人ひとりのペースに応じた援助を通じて、心身の豊かな成長を促している。
- おいしく安全な食事を楽しみ、さまざまな食の体験も重ねることで、子どもが食べることへの意欲と興味を持てるようにしている

- 理念「保護者とともに子育てをすすめる」の実現に向けて、情報発信による相互理解に取り組んでいる

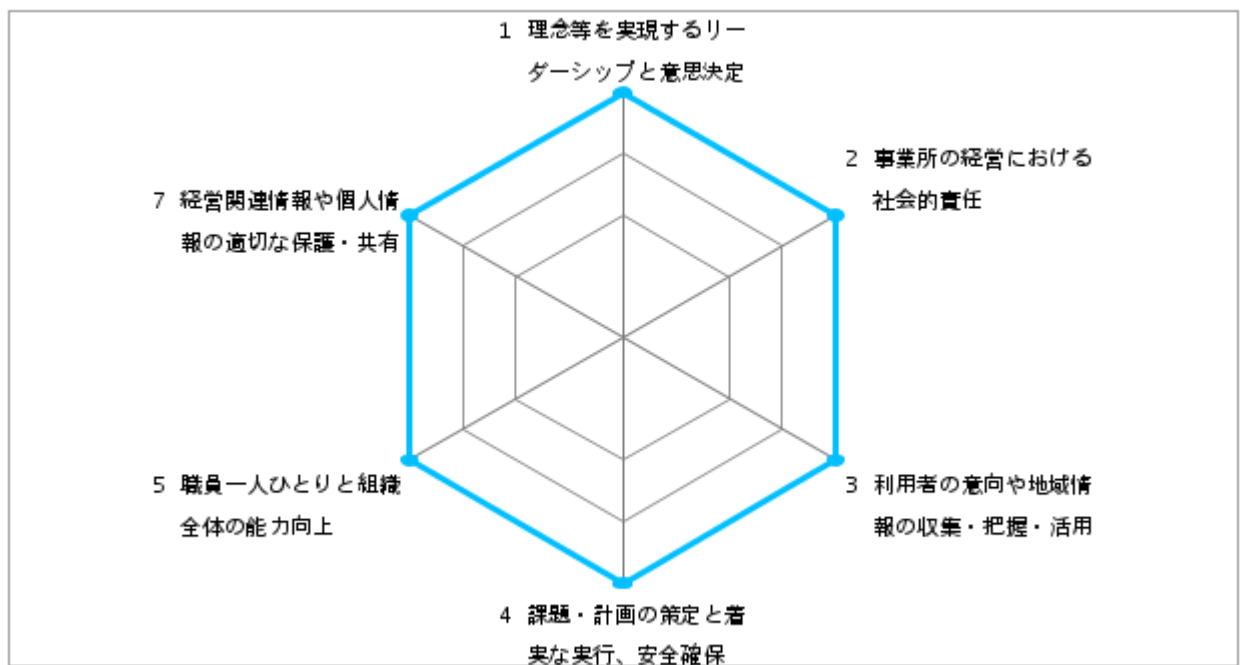
さらなる改善が望まれる点

- 「集団一律ではない、個々の状況に応じた支援」に向け、全職員へのさらなる業務手順等の認識共有への取組に期待したい
- 日常の子どもの支援や情報管理の面で、保護者の多様な価値観やプライバシー保護に配慮したさらなる検討が望まれる
- 事業計画のより確実な実行と進捗管理に向け、計画内容の具体性や達成評価のための指標の明示について検討を期待したい

事業者が特に力を入れている取り組み

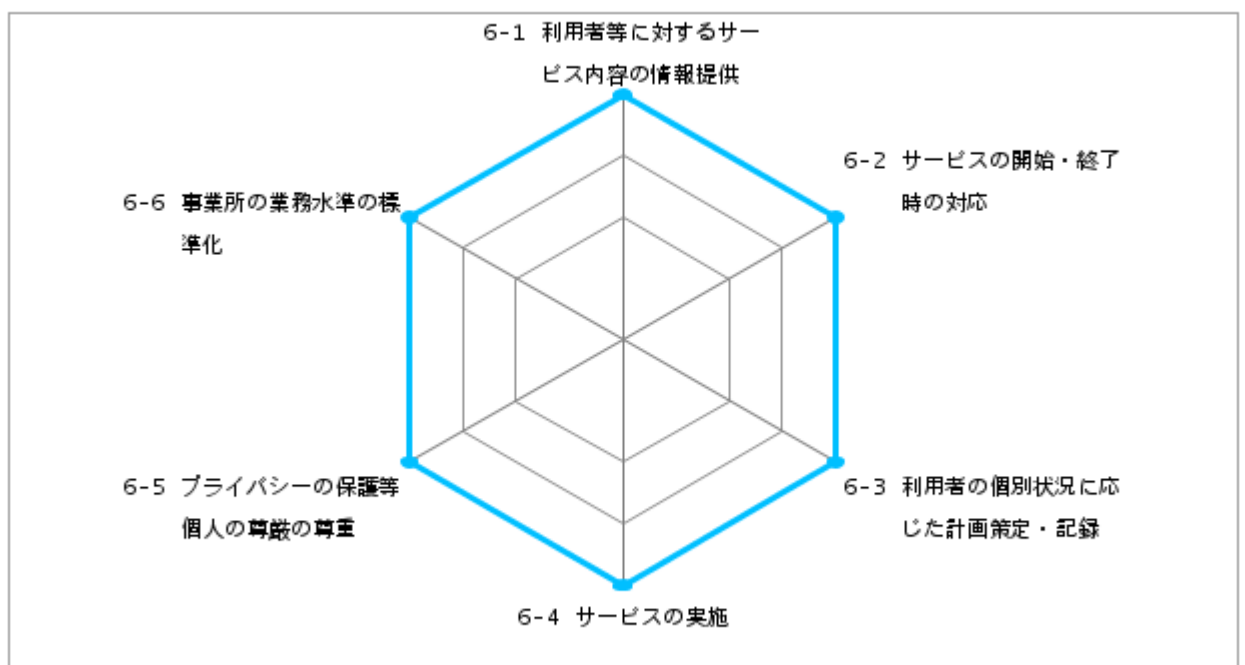
- ★ 地域子育て支援「びーだま」の事業継続に向け、関係各所との調整に尽力している
- ★ 保育を題材に職員同士で話し合い、新たな発想や意欲向上につなげる取組を行っている
- ★ 保護者との情報交流に工夫を凝らし、家庭との共通理解のもとで保育を提供している

25年度 組織マネジメント（ カテゴリー1～5、7 ）



— 25年度 組織マネジメント

25年度 サービス項目（ カテゴリー6 ）



— 25年度 サービス項目

サービス分析結果

サービスの実施項目

サービスの実施	37/37
1. 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている	○○○○○
【講評】	

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの全体的な姿を把握して、子どもの意欲や発想を尊重している 子どもが主体的に活動できる環境構成の工夫が行われている 配慮の必要な子への支援や子ども同士のトラブルへの適切な対応に努めている 	
2. 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている	○○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 家庭と園との連携を大切にして子どもの育ちを共有している 身辺自立に向けたさまざまな環境の配慮と関わりが行われている 快適な保育環境の中で、安全な休息時間が図られている 	
3. 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	○○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 「バオバブの保育が目指すもの」の実践を目指して保育が展開されている 子どもの自発的な遊びができる環境を整え、さまざまな玩具を提供している 子どもが季節感を感じ取れるような声かけや関わりを大切にしている 	
4. 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている	○○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 日常の活動の延長として、古来の季節行事や親子で楽しめる種々の行事を設けている 発達に応じて表現に親しんだり、保護者や地域と楽しく関われる行事を開催している さまざまな人との交流を子どもの体験と成長につなげることを大切にしている 	
5. 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	○○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 長時間の保育においてもメリハリを持てる活動の工夫を行っている 異年齢での関わりが日常的に行われ、年上・年下の交流が成長を促している 職員間の連携の仕組みを整え、保護者への伝達が円滑に行えるよう工夫している 	
6. 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	○○○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが食事を楽しめる工夫や献立の充実に取り組んでいる 食の安全やメニューの充実を図り、保護者への啓発にも取り組んでいる 保護者に日々の食事の模様を伝え、子どもの期待感を高める工夫もなされている 	
7. 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている	○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 日常保育で子どもの意識づけや衛生環境の整備を行い、ケガや感染症の予防に努めている 日々の子どもの健康状態の把握に努め、嘱託医と連携して健康管理を行っている 感染症等の保健情報を発信して、発生予防や蔓延防止などに努めている 	
8. 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	○○○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 園の思い「集団一律ではない、個々の状況に応じた支援」の実現に向けて取り組んでいる 保護者と交流するさまざまな機会を設けて共通理解形成に努めている アンケート等によって保護者の意向を把握し、業務の改善に活かしている 	
9. 地域のニーズに即した子育て支援を実施している	○○○
【講評】	
<ul style="list-style-type: none"> 親子サロン「びーだま」が地域の子育て世帯のコミュニティとなっている 地域委員会が報告を取りまとめ、両園の合同職員会議で活動方針を策定している 	

利用者調査結果

有効回答者数 18 / 利用者総数 31	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	88.0%	5.0%	0.0%	5.0%
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	88.0%	11.0%	0.0%	0.0%
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	77.0%	0.0%	0.0%	22.0%
4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	88.0%	11.0%	0.0%	0.0%
5. 安全対策が十分取られていると思うか	66.0%	33.0%	0.0%	0.0%
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	83.0%	16.0%	0.0%	0.0%
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	88.0%	5.0%	0.0%	5.0%
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	72.0%	11.0%	0.0%	16.0%
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	94.0%	5.0%	0.0%	0.0%
11. 職員の対応は丁寧か	94.0%	5.0%	0.0%	0.0%
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	66.0%	16.0%	5.0%	11.0%
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	72.0%	5.0%	0.0%	22.0%
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	77.0%	11.0%	11.0%	0.0%
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	83.0%	16.0%	0.0%	0.0%

事業者のコメント

全体の評価講評

全体の評価講評

特に良いと思う点

<p>日々をゆったりとくつろげる環境の中で過ごし、多彩な体験と一人ひとりのペースに応じた援助を通じて、心身の豊かな成長を促している。</p> <p>園の保育目標を反映し、乳児期や幼児前期の保育において大切にすることとして、ゆったりとした環境の中で、子どもが日常生活の中でのさまざまな体験を活かし、個々のペースに応じた援助を心がけ、保育を展開している。子どもの遊びのつながりを大事にし、戸外活動では四季の移り変わりや虫や鳥、草花などを五感で感じながら探究心や好奇心を満ち、さまざまな表現活動で自分らしさを表現する喜びを味わうなど、子ども一人ひとりが園生活を無理なく過ごすことで、心身の成長発達を促している。</p>
<p>おいしく安全な食事を楽しみ、さまざまな食の体験も重ねることで、子どもが食べることへの意欲と興味を持てるようにしている</p> <p>食材は最大限安全に配慮したものを使用している。昆布・削り節・煮干しでだしをとり、薄味を心がけて食材そのものの味を活かし、有機や無農薬にもこだわっている。園庭にはトマトやキュウリ、ナスやサツマイモなどを栽培し、収穫した野菜を子どもが調理室に運び、調理担当との会話を通して食を身近に感じられるようにしている。年度の終わりには子どもの様子や担任の思いを含めてメニューを決めて、子どもとともに作る楽しみを味わう取組が行われるなど、さまざまな食体験を通して、子どもが楽しく食べること、意欲を持てることを大切にしている。</p>
<p>理念「保護者とともに子育てをすすめる」の実現に向けて、情報発信による相互理解に取り組んでいる</p> <p>クラス懇談会や保育参加などを通じて、子どもの育ちについての共通理解や日々見せる子どもの成長などを伝えるとともに、今年度は園内研修での学びを参考に、写真を活用した壁新聞を通じて、日々の活動をわかりやすく伝える工夫を行っている。また、アンケート等によって把握した保護者意向とその活用だけでなく、結果と対策を園便りや書面によって保護者に伝えることで信頼関係を深めるなど、理念に掲げる「保護者とともに子育てをすすめる」ことの実践につなげている。</p>

さらなる改善が望まれる点

<p>「集団一律ではない、個々の状況に応じた支援」に向け、全職員へのさらなる業務手順等の認識共有への取組に期待したい</p> <p>法人系列園共通の「BBハンドブック」「保健マニュアル」を整備し、非常勤を含む全職員に配付と年度当初の職員会議でテーマを限定しての読み合わせにより理解深化に努めている。また常勤職員については法人による2日間の入職前研修で認識を共有する仕組みはあるが、非常勤職員への実施については課題としていところである。リーダー層からの日常の指導などもなされているものの、園の目指す「集団一律ではない、個々の状況に応じた支援」に向け、今後の非常勤職員を含めた業務手順等のさらなる認識の共有への取組に期待したい。</p>
<p>日常の子どもの支援や情報管理の面で、保護者の多様な価値観やプライバシー保護に配慮したさらなる検討が望まれる</p> <p>個人情報等の保護には一定の工夫がなされ、日常の子どもの着替えや水遊びでの羞恥心やプライバシーへの配慮にも留意している。ただし、訪問調査時には園庭で遊んだ子どもの玄関での着脱の際に、園外からの視線も意識した援助が望まれる場面が見られたほか、「登降園記録簿」の取り扱いや散歩などで室内が無人の状態となる際の「子育てノート（連絡帳）」の取り扱い、事務室における秘匿性の高い書類の管理など、保護者の多様な価値観や個人情報・プライバシーの保護の観点からさらなる検討が望まれる場面も見られており、今後の取組を期待したい。</p>
<p>事業計画のより確実な実行と進捗管理に向け、計画内容の具体性や達成評価のための指標の明示について検討を期待したい</p> <p>園としての単年度の事業計画を作成し、26年度の新園舎以降に向けた諸準備など、重点課題を示している。計画中の各課題について、責任の所在の明確化や取組の具体的内容・タイムスケジュールなど、確実な実行と達成評価につなげるための指標の明示についてはさらなる工夫の余地もあると考えている。一方でそのためには他の業務も含めた職員の負担軽減を図る必要があり、結果として計画の進捗確認は年度末に総決算を行うのみとなっている。より実効性を持った計画推進の取組に向け、これらに関する今後の検討が期待される。</p>

コメント

<p>利用者調査では開始時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状、園内掲示用のポスターなどで理解促進を図り、開始後には回収率向上のため提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付した。また開始時の説明で評価項目への理解が深まるよう配慮したり、各標準項目の振り返りを的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所が自己評価を行うにあたっての疑問や不安を軽減できるようにしている。</p>

事業者が特に力を入れている取り組み

<p>★ 地域子育て支援「びーだま」の事業継続に向け、関係各所との調整に尽力している</p> <p>地域の未就園世帯に絵本の貸し出しや読み聞かせ、健康・栄養相談や手遊び・わらべ歌など、保育所としての知見を多彩な内容で提供する親子サロン「びーだま」は、他市を含め約320世帯の</p>
--

登録と親子で年間のべ約5,600名の利用実績があり、地域からの幅広い支持を得ているが、26年度の新園舎移転後の事業継続が課題となっている。利用者の要望も根強く、実施場所の確保や代替的な活動への移行に向け、関係各所との調整に尽力している。
関連評価項目 (事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある)
<p>★ 保育を題材に職員同士で話し合い、新たな発想や意欲向上につなげる取組を行っている</p> <p>系列の「おおきな家」と各クラス合同で行う半期ごとに保育の振り返りで保育実践に関する話し合いを行い、組織的な質の向上を図っている。あらかじめ日常の保育場面でのエピソードなどを綴った報告書を配付し、各クラスから感想を寄せる形で全体の共有を図るとともに、画像も素材として年齢や職種に関わりなく話し合うことで、認識の深まりや気づきにつなげている。また「エピソードの会」を年間複数回実施し、日頃の保育での場面・エピソードを担当者が資料とともに紹介し、感想を述べ合うことで、新たな気づきや発想を促す取組としている。</p> <p>関連評価項目(サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている)</p>
<p>★ 保護者との情報交流に工夫を凝らし、家庭との共通理解のもとで保育を提供している</p> <p>家庭と園との連続性を大切に考え、登降園時にはできる限り直接会話で伝え合うほか、「子育てノート(連絡帳)」を活用している。保育者は子どもの代弁者であると考え、子どもの状況や思いを詳しく伝えるとともに、保護者との会話を通して子育てや日頃の悩みなどを受けとめ、園と家庭との相互作用によって子どもの育ちを促したいと考えている。日中の子どもの活動はコメントを入れた写真の壁新聞でも伝えており、過去の様子はファイリングされ、いつでも閲覧できるよう配慮され、さまざまな方法で子どもの様子を伝え、保護者との信頼関係を築いている。</p> <p>関連評価項目(家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている)</p>

組織マネジメント分析結果

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	9/9
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	〇〇〇〇
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	〇〇
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	〇〇〇

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	4/4
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	〇〇
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	〇〇
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	7/7
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	〇〇
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	〇〇〇
3. 地域の関係機関との連携を図っている	〇〇

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	8/8
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	〇〇
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	〇〇〇
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	〇〇〇

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	11/11
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	〇〇〇
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	〇〇〇〇
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	〇〇〇〇
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	4/4
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	〇〇〇〇

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	8/8
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	〇〇〇
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	〇〇〇〇〇
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	7/7
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	〇〇〇
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	〇〇〇〇

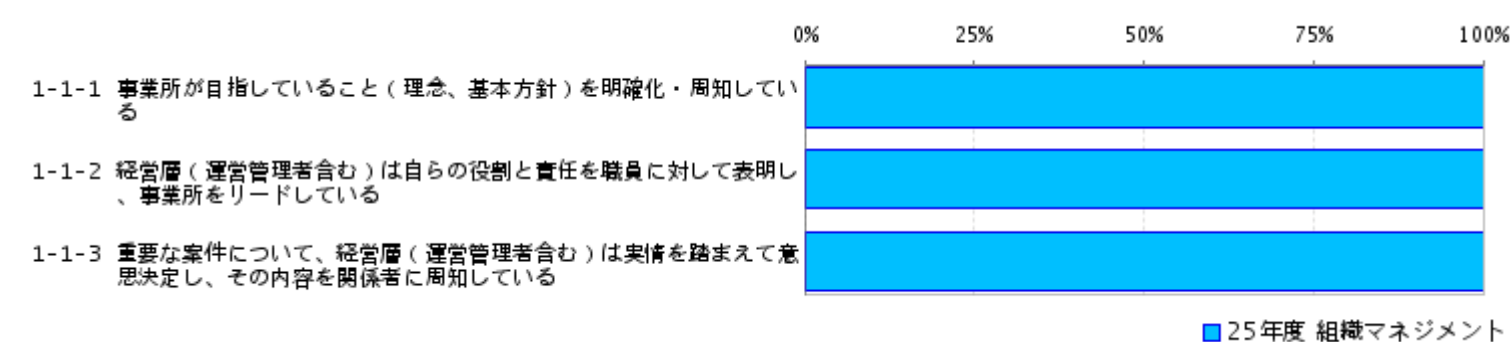
情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	7/7
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	〇〇〇
2. 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	〇〇〇〇

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
4. 事業所の財政等において向上している	
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている

リーダーシップと意思決定



<p>講評</p> <p>法人共通の願いを保育の理念に掲げ、さまざまな取組で内外に示し、理解を求めている</p> <p>すべての人にとって生涯を通じて大切となる、自己肯定感や他者と認め合える心の基礎を、大切な乳幼児期に一人ひとりの子どもたちが育むことができるよう、保護者とともに子育てを進めることを法人共通の願いとしている。これを保育の理念に掲げ、法人のホームページ(HP)・パンフレット等の資料への記載や入園時の説明によって保護者に伝え、職員には保育課程や総合手引書「BBハンドブック」への記載とこれらの全職員への配付、年度当初の全職員参加の会議などで周知を図っており、新人職員にもオリエンテーションの中で言及している。</p> <p>経営層の職責が明示され、これを踏まえて園長が園の統括者として職務を遂行している</p> <p>「BBハンドブック」に運営委員(各クラス代表・園長・フリー・調理)をはじめとする経営層の職責を示している。園長は「一人ひとりの子どもの尊重」を最も重視しつつ、各職員との対話に努めて意欲の向上を図り、ボトムアップ型の組織を目指す中で必要な場面でリーダーシップを発揮することを基本としている。また幼児も含めた就学前施設へと移行する来年度以降の新体制を見すえ、乳幼児の各ブロックリーダーの役割・権限の明確化、各職員の主体的な能力発揮を支援するファシリテーターとしての仕組み・職位の確立などを課題と考えている。</p>
--

法人・園の各単位での意思決定手順が定められ、職員と保護者に重要案件を伝えている

法人本部機構として給与等事務処理センター・研修交流センター・情報処理技術センター・事務開発室をおき、法人共通の各種事務・業務を統括するとともに、法人運営に関することは各園園長による企画調整会議で検討し、各園に下ろす流れとしている。園内での意思決定は案件により運営委員会や常勤職員による職員会議で検討・決定し、保護者には複数箇所の保護者向け掲示板や園便り・書面配付等で伝えている。最近の事例では来年度の乳幼児園移行に伴う園名の変更、幼児クラスの名称や定員などに関する情報などがある。

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

標準項目	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○	重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
事業者が特に力を入れている取り組み		

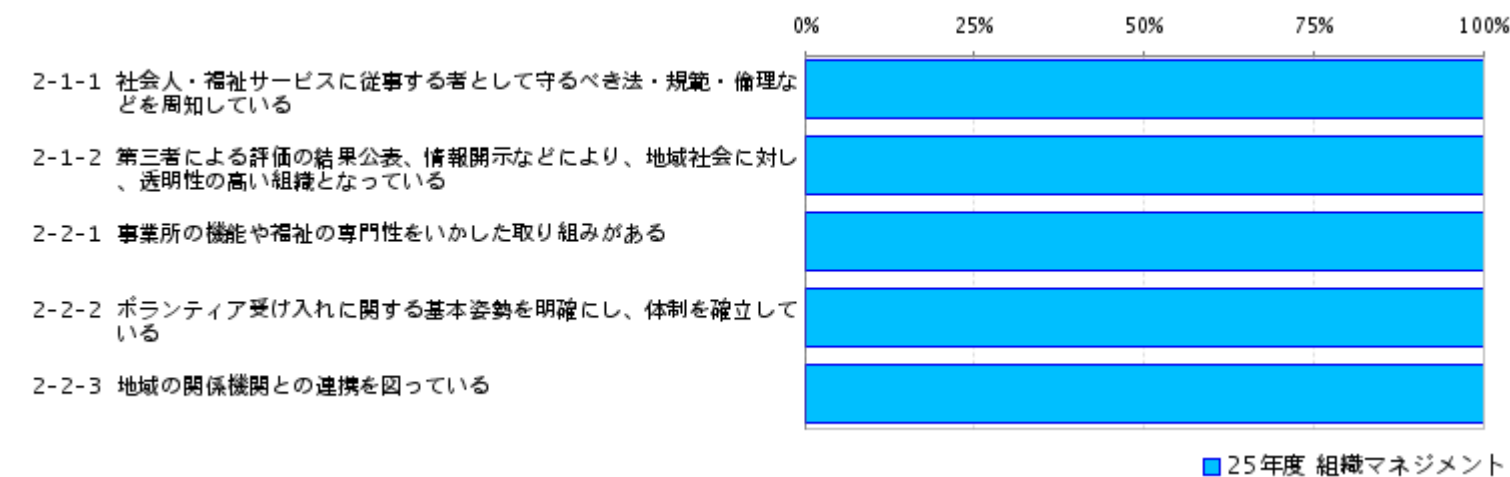
1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

標準項目	○	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○	経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
事業者が特に力を入れている取り組み		

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

標準項目	○	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み		

経営における社会的責任



講評

職員に求める倫理規範の徹底を促し、園としての情報発信にも取り組んでいる

「BBハンドブック」制作時に職員の総意として制定した「職員綱領」に子どもの尊厳・存在の尊重、地域や保護者との連携など 10 か条の規範を示すほか、「職員としての心がけたいこと」に職員・保育者としての基本心得や守るべき倫理・道徳を具体的に記載している。これらについて年度当初の職員会議では読み合わせを行っており、非常勤職員には別に書面で遵守すべき倫理を配付して確認を促している。HPや系列のパオパブ保育園(「おおきな家」と合同の地域向け情報紙「プレーメンの庭から」)の各所での配布など、情報発信にも取り組んでいる。

親子サロン「びーだま」を拠点とした多彩な地域子育て支援を行っている

退職職員や卒園児の保護者など地域の子育て経験者からなる組織「ひろばさくらんぼ」が運営する親子サロン「びーだま」を専用室で提供し、絵本の読み聞かせや貸し出し、保健師・栄養士による健康相談や離乳食・栄養相談、手遊び・わらべうたなど、多彩な支援を行っている。食に関する相談は投函用のボックスで常時質問を受け付け、「おおきな家」と共同発行の「プレーメンの庭から」には食事や保健のコラムのほか利用者や在園世帯からの寄稿など、子育てへの参考や癒しとなる情報を掲載している。「おおきな家」とは育児講座も合同で開催している。

地域ネットワークとの連携やボランティア等の受け入れの仕組みを整えている

毎月開催される市の私立園長会で行政施策や市内の保育ニーズ等の報告、市内各園の情報交流などが行われるほか、子ども家庭支援ネットワーク連絡会議とも必要に応じて情報提供を得る仕

組みが整えられている。新園舎移行後には就学前の小学校との連携を深め、地域の自治会との関係づくりにも取り組む意向である。「BBハンドブック」にはボランティア等の受け入れについて意義や手順などが記載され、副園長が窓口となって守秘義務等を含む留意事項・心得を書面「職場体験・保育体験ボランティアの方へ」を示して伝えることとなっている。

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

標準項目	○ 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○ 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

標準項目	○ 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○ 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

標準項目	○ 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	○ 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	<p>★ 地域子育て支援「びーだま」の事業継続に向け、関係各所との調整に尽力している</p> <p>地域の未就園世帯に絵本の貸し出しや読み聞かせ、健康・栄養相談や手遊び・わらべ歌など、保育所としての知見を多彩な内容で提供する親子サロン「びーだま」は、他市を含め約320世帯の登録と親子で年間のべ約5,600名の利用実績があり、地域からの幅広い支持を得ているが、26年度の新園舎移転後の事業継続が課題となっている。利用者の要望も根強く、実施場所の確保や代替的な活動への移行に向け、関係各所との調整に尽力している。</p>

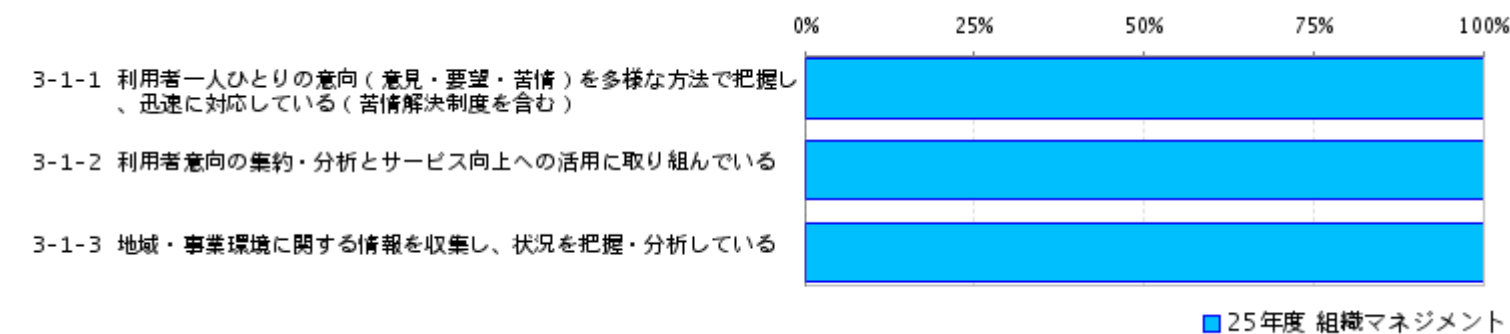
2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

標準項目	○ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○ ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○ ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-2-3. 地域との関係機関との連携を図っている

標準項目	○ 地域との関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○ 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



講評
<p>苦情解決制度や保護者との日常の交流などから個別の要望・苦情等を把握している</p> <p>苦情解決制度を整備し、第三者委員も選任して玄関横の掲示板に掲示するほか、入園時に保護者へ説明している。同制度とともに、意見箱(「なんでもご意見箱」)や日常の会話・連絡帳(「子育てノート」)などを通じて保護者の個別の要望・苦情等の把握に取り組み、新園舎で使用する土・建材等への懸念が寄せられたことに対し、対応の経過・結果を園長名の書面で保護者に通知するなど、解決と透明性確保に努めている。利用者調査では外部の相談窓口の認知や要望・不満の言いやすさについて、例年8割弱の支持を得ている。</p> <p>毎年利用者調査などのアンケート機会を改善や保護者との相互理解に活かしている</p>

毎年行う利用者調査のほか、年1～2回行う保護者との交流機会「ワークショップ(懇談会や園の備品制作、美化活動などを行う)」の参加者にアンケートを行い、次回の企画の参考とするほか、寄せられた意見を集約し、保護者にも書面で紹介している。利用者調査についても満足度や設問別の傾向、主な自由意見に対する園としての回答などを文書にまとめ、保護者に伝えることで、相互理解と改善につなげている。利用者調査の要望・不満等への対応を問う質問では90%以上の支持が得られており、こうした取組も寄与しているものと思われる。

地域ニーズや制度・業界の動向など、園をとりまく事業環境の情報を収集している

「びーだま」参加者にアンケートを行い、把握した感想や意見は年次の報告書にまとめ、次年度の参考とする流れが確立されている。保育制度や国・自治体の政策の動向などは市園長会や保育団体からの通信・刊行物などから随時把握し、毎年公表される多摩市の保育計画においても市内各地域の待機児の状況や市内各園の施設整備の予定など、保育需要の動向が詳細に示されている。これらについては職員会議で概要を説明するなど、組織内の啓発につなげるほか、このほど策定された法人の中・長期計画においても参考とされている。

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

標準項目	○ 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	○ 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取組み	

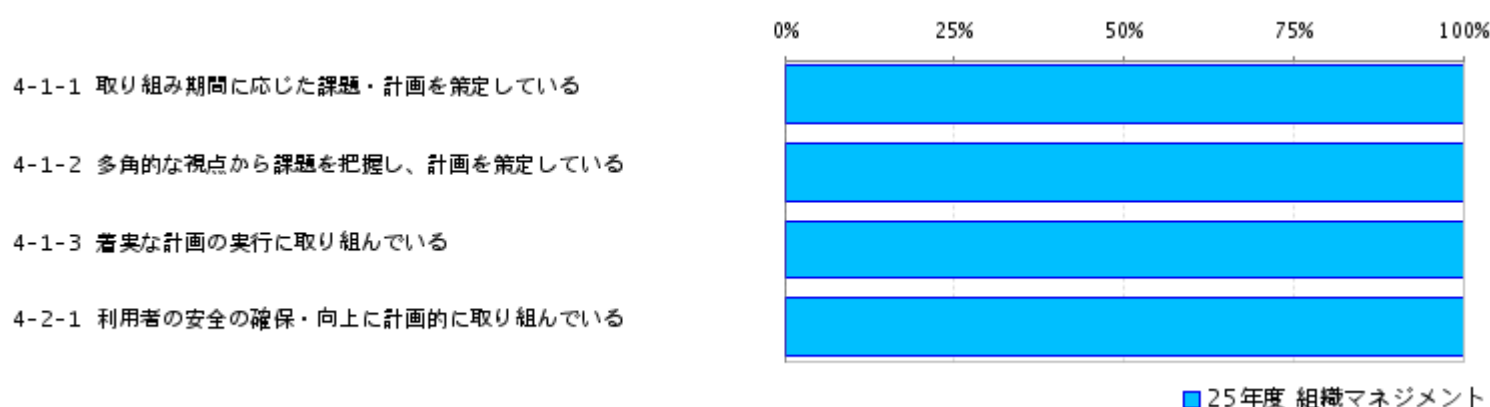
3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

標準項目	○ 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	○ 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	○ 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

標準項目	○ 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	○ 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	○ 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
事業者が特に力を入れている取組み	

計画の策定と着実な実行



講評

法人としての長期計画と園の単年度計画を策定し、課題解決への取組を示している

法人において24年度からの15年計画を策定しており、「大綱」の形で課題と方向性を大局的に示している。園長任期5年の3期分とし、「組織運営」「施設整備」「財政」「保育」「地域福祉」「研修」などの各テーマについて状況と課題、目標を明示しており、策定時には職員の意見も募り、検討会がコメントを示す形でフィードバックしている。園としては単年度の事業計画に運営における諸課題を示しているが、各取組の責任の所在や具体的内容、タイムスケジュールなど、確実な実行と達成評価のための指標の明示には検討の余地も認識されている。

単年度計画に示される新園舎移行に向けた各取組を実行し、内外の事例も参考としている

年度事業計画は園長が現場の意向も踏まえ計画を作成、理事会の決定を経て職員に回覧し、周知している。新園舎移行を控え、来年度の幼児クラスの定員や保育内容・環境、職員配置などについて検討が重ねられており、保護者にも可能な範囲で情報を開示している。また他園の事故の報道などを昼のミーティングや職員会議で周知するほか、新園舎の参考とすべく他園の見学なども行い、得られた学びを会議内で共有している。「おおきな家」と合同で年2回の保育の振り返りも行われ、具体的な保育実践について話し合い、組織的な質の向上につなげている。

定期的な点検を踏まえた安全向上、災害時の保護者との連携強化などに取り組んでいる

「事故防止チェックリスト」に基づいて室内外、食事・睡眠などの各分野で安全・事故防止の取組状況を毎月点検し、「安全衛生委員会」の毎月の定例会議で必要な改善を検討する仕組みとしている。同委員会では前掲の毎月の安全点検や毎日の園庭の見廻りから得られた安全衛生上の課題に関する検討、各種訓練の実施・反省などが行われており、日常のケガや軽微な危険事例などを同委員会や毎日の昼ミーティング・職員会議などを通じて組織内で周知を図り、再発防止につなげている。今年度は災害時の一斉メール配信の仕組みの強化も図られている。

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

標準項目	○ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○ 年度単位の計画を策定している
	○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

標準項目	○ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
事業者が特に力を入れている取り組み	

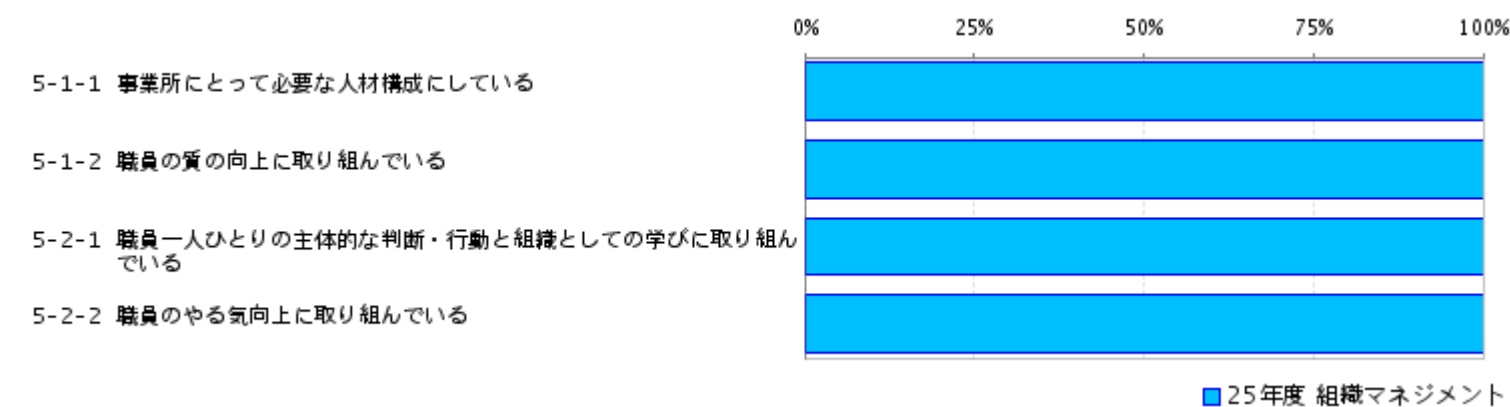
4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

標準項目	○ 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している
	○ 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

標準項目	○ 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○ 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している
	○ 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
	○ 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

職員と組織の能力向上



講評

法人としての人材育成の指針が定められ、目標管理などの取組が行われている

法人の「『職員としての育ち合い』ファシリテーションプログラム」を人材育成や自己研鑽の基本指針とし、全職員による自己評価と園長との面談を通じた緩やかな目標管理などを行っている。新任・中堅・ファシリテーター層・管理者層の各職位に向けた研修プログラムの策定などを経年の課題としており、引き続き検討する意向である。園内の配置は園長が面談で把握した各職員の意向を踏まえ案を作成、職員会議で確認する流れとしており、新園舎移行を控えた今年度は新たに設置する幼児クラスを含め、組織内の話し合いのもとで決める予定としている。

内外の研鑽機会の活用により、各職員が専門性を高め、見識を深められるようにしている

研修を含む必要な学びについては前掲の自己評価と園長との面談をもとに園長・主任から個別に助言を行う仕組みとしており、法人内の「おおきな家」または系列全園合同で保護者との関係づくりや生活と表現などについて見識を深める機会も設けている。研修参加後に提出される報告書を配付して情報共有を図る仕組みとしており、報告書は記入欄を「感想」「職場へのフィードバック」「特に報告しておきたい内容など」の3つに分け、資料も必要な部分を抜粋して併載するルールとして、より参照・共有がしやすいよう工夫をしている。

各種の福利厚生や業務負担軽減、自主性の尊重など、やる気の維持向上を図っている

法人の方針として、いわゆる業績評価を処遇と連動させる仕組みは導入していないが、今後リーダー層の育成や新たな成長段階・職階を構築していくうえでは、責任に応じた手当制度等の検討も、法人内では視野に入れている。各種共済への加入のほか、職員による互助会が設置され、慶弔費や懇親会費用の補助などが行われているほか、非常勤職員を活用して常勤職員の事務作業時間を保障し、負担軽減につなげたり、職員の自主性・自己管理を尊重し、提出期限などを必要以上に協調せず、プレッシャーをかけないなどの配慮も行っている。

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

標準項目	○ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	○ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

標準項目	○ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	○ 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している
	○ 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している
	○ 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている
	○ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
事業者が特に力を入れている取り組み	

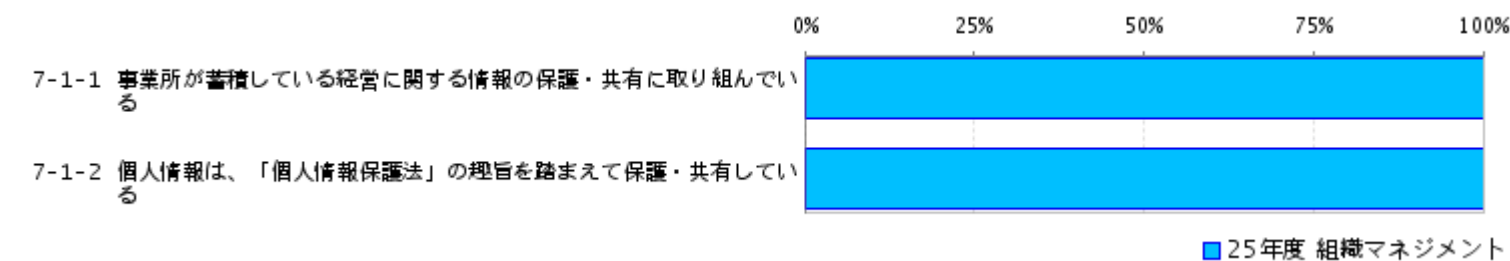
5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

標準項目	○ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

標準項目	○ 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	○ 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	○ 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○ 福利厚生制度の充実に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

情報の保護・共有



講評
書類・データの各情報の管理や漏洩防止に向け、さまざまな対策を講じている
重要な書類情報は事務室・職員室で管理し、一部書棚の施錠や部屋全体の施錠を行うとともに、警備会社のセキュリティ監視もなされており、部外者のアクセスを防いでいる。また各書類は保管・廃棄の年限が定められ、これに基づいて年度ごとに更新されている。訪問調査時には一部書類の管理についてさらなる検討の余地も見られ、内容や機密性を考慮した管理のあり方の見直しも必

要かと思われる。10 台程度設置されたPCはログイン時のパスワードのほか園長・副園長用のPCには固有のパスワードを設けるなど、アクセス制限の徹底が図られている。

個人情報の利用目的を保護者に示し、子どもの肖像等に関する意思確認も行っている

個人情報の利用目的は「保育時間申込書」「保育予備調査票」「生活状況調査票」など保護者記入の各様式に記載されているほか、HPや取材など対外的な発信媒体での子どもの肖像の利用については書面で意思確認をしている。開示請求への対応については規程に示されており、請求や決定通知の様式も整備しているが、保護者へのより積極的な周知についても検討が期待される。

職員及び関係者の個人情報保護の徹底について、啓発の仕組みを整えている

個人情報保護の徹底について、全職員必携の「BBハンドブック」に「個人情報の取扱い、電子情報の取扱いについて注意してほしいこと」として保護者との会話や事務作業中の遵守事項など、日常業務における留意点を示すとともに、「文書・書類に関する個人情報保護」に日常の業務で主に使用する各書式に関する記入時の注意点や保管・廃棄上の原則、データ情報の園外持ち出し禁止などを明記している。実習生・ボランティア等には受け入れ時に書面とオリエンテーションによって徹底を促し、誓約書の提出を課している。

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

標準項目	○ 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	○ 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	○ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
事業者が特に力を入れている取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

標準項目	○ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	○ 開示請求に対する対応方法を明示している
	○ 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	

カテゴリー1～7に関する活動成果

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
運営における現場の意向の反映、新園舎移行準備や安全面の向上に取り組んでいる
園としての重要な意思決定を行う機関の一つである運営委員会について、参加メンバーを拡大して各クラスからも代表者が出席することとし、園として志向するボトムアップ型、組織全体の関与による運営の体制をより鮮明にしている。また26年度からの新園舎移行に向け、事業計画を策定して必要な検討を行うとともに、安全面でも災害時の一斉メール配信の仕組みを変更し、アドレスの管理や発信を専門業者を通じて行うようにし、必要な際により確実な機能発揮を図っている。

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
活発な組織内の研鑽を通じた資質向上や業務負担の軽減が図られている
法人内の合同研修について、職員の意見を踏まえ、「おおきな家」との2園合同の研修を増やし、身近な姉妹園同士で学ぶ機会を充実させた。また半期ごとに「おおきな家」と各クラス合同で行う保育の振り返りでは画像も活用した具体的な保育実践の検討を行い、年齢や職種の枠を超えた自由な発言・提案を通じて認識を深め、気づきを得る機会としている。また年間複数回行う「エピソードの会」では常勤職員と調理担当が参加し、日常の保育実践での場面・エピソードを園長・副園長が保育日誌から選び、担当者が資料とともに紹介し、感想を述べ合う中で、新たな視点や各人の実践の振り返りを促しており、挙げられた意見を記録にまとめて配付し、共有する仕組みも設けている。処遇の面でも、非常勤職員を活用して常勤職員の事務作業の時間を保障し、業務負担の軽減につなげる配慮を行っている。

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
情報の保護・管理及び発信の面においてさまざまな改善に取り組んでいる
情報管理面では、新年度に際しての書類の入れ替えのほか、一部のPCのサポート期限が近づいたOSを更新するとともに、データのバックアップをクラウド上で行うようにした。また専門業者に委託してLANネットワークの更新及びセキュリティ管理の増強を行っている。
保育の面では、26年度から全年齢を受け入れる体制に移行し、園の名称も変更となることに伴い、これまで「おおきな家」と共通使用していたパンフレットと「入園のしおり」を今年度から園単独で

制作している。また日々の保育や子どもの姿を掲載する壁新聞を写真入りのカラー刷りにし、より具体的に伝わるようにするとともに、保護者の要望を受けて玄関に「新園舎の進捗状況」ファイルを設置したり、ブログにログインパスワードを設定して閲覧者を保護者に限定するなど、在園・入園希望者のそれぞれに対して情報発信面での向上や充実が図られている。

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている

節電や計画的な財務管理など、財務バランスの最適化が図られている

保育や業務の実践に支障のない範囲で電灯の設置数を減らし、待機電力の削減につなげたり、こまめな消灯や夏のエアコン使用の抑制など、日常的に節電に取り組むとともに、実績について月次で前年度比較を行い、成果の確認を行っている。また非常勤職員の採用確保に向けた方策として賃金計算のあり方を見直し、経過措置を設けて移行を図ったり、職員の理解を得ながら昇給幅を圧縮するなど、給与制度の見直しを実施した。24年度末決算においては新園舎建設などを見越した積立金が確保されており、概ね順調に推移しているものと考えられる。

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている

さまざまな手法で保護者の個別・全体の意見や要望を把握し、改善の参考としている

苦情解決制度や日常の交流などを通じて保護者の個別・全体の意向把握に取り組み、行事の日程などのほか新園舎で使用する土・建材等に対する懸念が「子育てノート連絡帳」で寄せられ、これについて対応の経過・結果を園長名の書面で保護者に通知など、種々の改善に結び付けられている。

サービス分析結果

サービス提供のプロセス項目

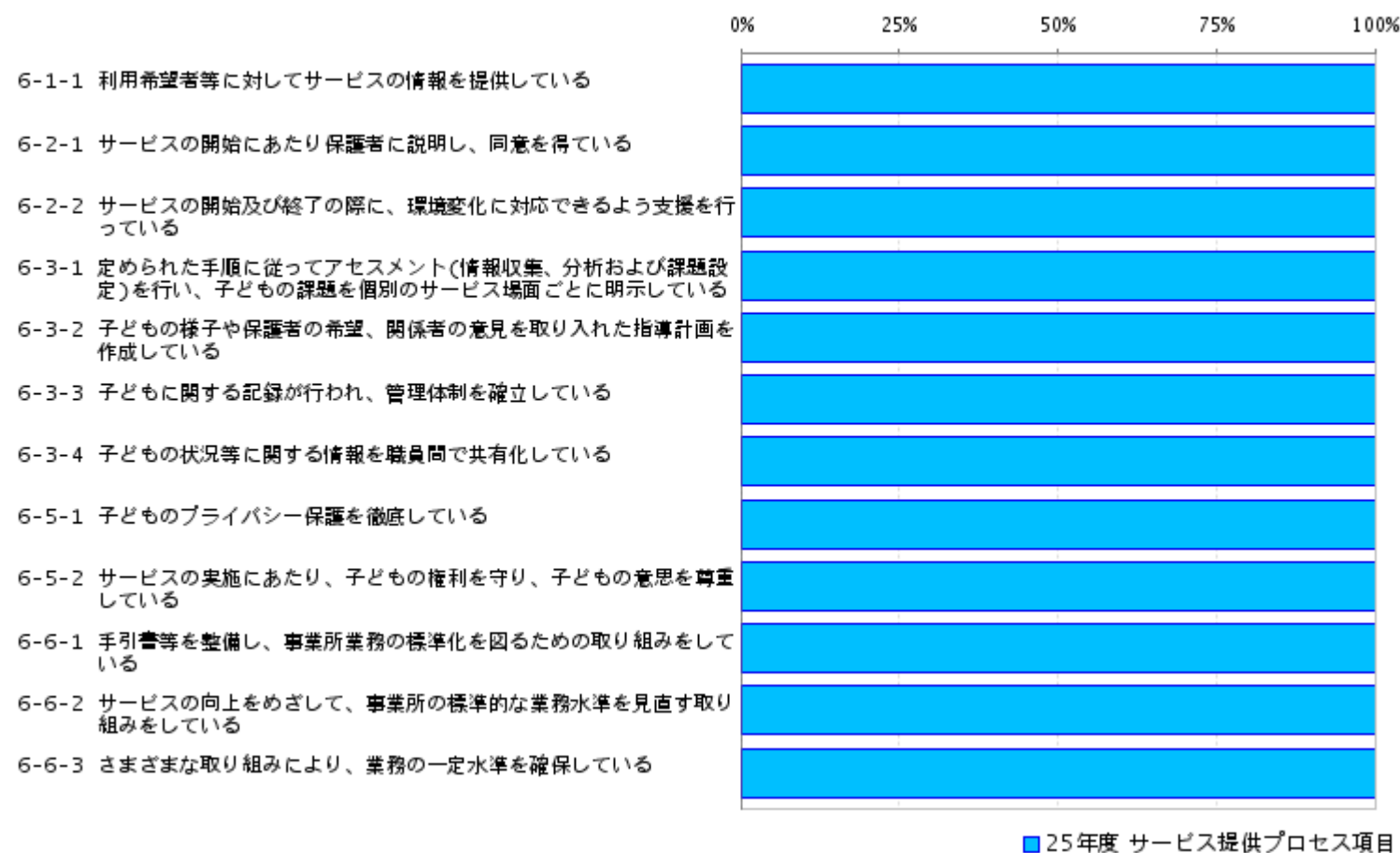
サービス情報の提供	4/4
1. 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	〇〇〇〇
サービスの開始・終了時の対応	6/6
1. サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	〇〇〇
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	〇〇〇
個別状況に応じた計画策定・記録	12/12
1. 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	〇〇〇
2. 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している	〇〇〇〇〇
3. 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	〇〇
4. 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	〇〇
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	7/7
1. 子どものプライバシー保護を徹底している	〇〇
2. サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	〇〇〇〇〇
事業所業務の標準化	11/11
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	〇〇〇
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	〇〇〇
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	〇〇〇〇〇

サービスの実施項目

サービスの実施	37/37
1. 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている	〇〇〇〇〇
2. 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている	〇〇〇〇
3. 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	〇〇〇〇
4. 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている	〇〇〇〇
5. 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	〇〇〇〇
6. 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	〇〇〇〇〇
7. 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている	〇〇〇
8. 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	〇〇〇〇〇
9. 地域のニーズに即した子育て支援を実施している	〇〇〇

評点の内容

25年度 サービス提供プロセス項目



サービス情報の提供

講評
<p>パンフレットの資料とホームページで園の基本事項や子育て支援情報を提供している</p> <p>法人のシンボルツリーであるバオバブの木が表紙を飾る園のパンフレットは 26 年度からの移転と名称変更、全年齢受け入れ開始を見すえ、今年度刷新しており、保育の目標や方針、新園舎の見取り図などを掲載している。見学者には子育て支援として行う親子サロン「びーだま」の案内と子育て情報紙「プレーメンの庭から」も手渡している。法人のホームページ内に当園のページが設けられ、園の概要や各室と園庭の風景、子育て支援の情報や過年度の第三者評価結果などを掲載し、法人共通の保育の理念・方針等と合わせ、園の全体像がわかるものとなっている。</p> <p>行政や地域資源を活用した情報発信を行い、市内・地域内での広報につなげている</p> <p>市主催の保育所合同説明会に参加して説明等を行ったり、市発行の保育所案内に情報を掲載するなど、さまざまな媒体で園の広報を行っている。また「おおきな家」と協働している地域子育て支援の活動では、年 10 回発行する子育てセンター便り「プレーメンの庭から」に親子サロン「びーだま」の情報を掲載し、地域の健康センター・児童館・公民館など各所に設置するなど、地域の社会資源を活用した情報発信にも取り組んでいる。</p> <p>見学希望者の都合に柔軟に対応し、今後の園運営の状況変化についても伝えている</p> <p>見学は電話で予約を受け付けており、希望者の都合に合わせた時間帯とするほか、平日夕方や土曜日の見学にも柔軟に対応している。受け入れ時には園内を案内し、子どもの様子や活動を見せるとともに、雰囲気を感じてもらい、実際の入所した時のイメージがわくように心がけている。またパンフレットに沿って、保育の考え方や特色、食へのこだわり、卒園後の支援の継続などのほか、26 年度から移転のうえ新園舎で全年齢の受け入れを開始することなど、今後の運営状況の変化も丁寧に説明している。</p>

1-1. 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している

標準項目	○ 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○ 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
事業者が特に力を入れている取り組み	

サービスの開始・終了時の対応

講評
<p>「入園のしおり」に沿って園の保育に対する思いを伝え、同意の確認を行っている</p> <p>入園説明会では「入園のしおり」に沿って、副園長・保健担当・担任など各職位・職種別で利用開始に必要な情報を保護者に説明するとともに、保育については集団一律ではなく、個々の状況に応じた支援することなど、園の大切にしている保育に対する思いも伝えている。担任からは持ち物について理解しやすいように見本を見せながら説明し、保護者が実際の準備物をイメージできる</p>

ようにしている。説明後には質疑応答によって入園に際しての同意の確認としているほか、「HP・雑誌取材等写真掲載に関する調査」で写真の取り扱いについても確認している。

個々の支援に向けて、個人面談で子どもの状況や保護者意向の把握に努めている

入園に際して担任が個人面談を行い、保護者が記入する「保育予備調査票」「生活状況調査票」などをもとに睡眠・排せつや予防接種・罹患状況などの子どもや家庭の状況、保護者の意向を把握し、「個人面談記録」に記録している。またアレルギー等の個別の配慮が必要な場合は後日、保健・調理・担任が面談を行って状況を確認するなど、個別の支援に向けて必要な情報の把握に努めている。これら新入園児の情報は職員会議で共有を図り、保育開始に備えている。

入園時の子どもの負担軽減に努め、「おおきな家」と共同で支援継続に取り組んでいる

入園直後の子どもの負担に配慮し、保護者の就労状況や子どもの状態などに応じて保育日数・時間を調整し、徐々に長時間保育に移行するほか、0歳児には登園初日に保護者と一緒に半日保育を体験してもらい、不安やストレスの軽減と離乳食への理解につなげている。「おおきな家」移行時には、幼児棟説明会で幼児担任から説明を行ってスムーズな進級を心がけており、卒・退園後には「おおきな家」と共同で「バオバブ通信」や園行事の案内状の送付、「中学入学を祝う会」等の独自の機会を設けるなど、長期の継続的な支援に取り組んでいる。

2-1. サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

標準項目	○ サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
	○ サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	

個別状況に応じた計画策定・記録

講評	
子どもの情報を細やかに把握をし、職員間で共有をして個別支援に活かしている	
子ども一人ひとりの情報は「生活状況調査票・児童状況調査票・面談記録」とともに「個人別月間計画・懇談会面談記録・家庭訪問の記録」などが児童票として個別にファイリングされている。入園時の面談は成育歴や入園に際しての必要な情報、保護者の意向を聴き取るなどのほかに入園後の不安点などを受けとめ、親子で安心して入園ができるような配慮がなされている。子どもの情報は職員会議で共有するほかに職員が必要に応じて閲覧ができるようになっているなど、すべての職員が子どもの情報を把握することできめの細かい支援を行えるようにしている。	
計画は個々の振り返りを行い、現在の子どもの姿をもとに作成がなされている	
法人の保育のベースとなる「BBハンドブック」や保育課程をもとに年間指導計画を策定し、「中間の振り返りと学び」として半期に一度と年度末には年間を通しての全体及び個別のねらいや発達、クラステーマに対しての振り返りを行い、次年度につなげている。年間指導計画をもとに月案・週案の作成がなされており、週案は活動の振り返りと翌週の緩やかな活動計画および配慮点を記入している。日々の活動計画をもとに子どもの姿を見て無理のないような保育の提供に努めている。	
保育や子どもの記録等を通しての職員の取組と共有化が図られている	
毎月の保育会議では月間計画・毎月のテーマ・個人の様子・日誌や子育てノートなどを通して子どもの姿と活動についての振り返りが行われ、次月の計画に活かされている。年間に複数回「エピソードの会」を実施し、子どもの姿や行動を通しての気づきや考察などを職員間で共有することで子どもの状況を把握し、日々の保育につなげている。また毎日の10分間ミーティングでは子どもの活動や変化、保護者の情報などを伝達して職員全体での共有を図っている。	

3-1. 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

標準項目	○ 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
	○ 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
事業者が特に力を入れている取り組み	

3-2. 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している

標準項目	○ 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
	○ 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画を保護者にわかりやすく説明している ○ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している ○ 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している
事業者が特に力を入れている取り組み	

3-3. 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある ○ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
事業者が特に力を入れている取り組み	

3-4. 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している ○ 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
事業者が特に力を入れている取り組み	

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

講評
<p>日々の実践において子どものプライバシーや羞恥心に配慮した支援に努めている</p> <p>子どもの情報を外部とやり取りする際には保護者の同意を得て行い、入園時には園のブログ等の掲載についての同意書にサインをしてもらうことで了承を得ている。羞恥心への配慮としては、歩行が安定する頃より紙おむつをパンツ型に移行して座位での着脱を促しており、夏の水遊びは玄関先で行い、日よけタープとパラソルで外部からの視線を遮るようなものとなっている。外遊び後の着替えは玄関ホールで行われており、衝立を用意し、目隠しとして使用されているが、外部からの来訪者からの不意の視線をも考慮した観点からはさらなる検討も期待される。</p> <p>子どもを尊重した保育の実践や家庭事情に配慮する支援に努めている</p> <p>保育課程を読み合わせ、子どもへの言葉遣いや対応について全職員で確認し合い、一人ひとりの子どもを尊重した支援につなげている。職員の倫理規範や保育・業務実践上の基本的な心得等を示す系列園共通の「BBハンドブック」には子どもを尊重する基本姿勢を示し、年度当初の職員会議で非常勤職員も含む全職員に対して資料の配付と説明でこれらの規範について再確認と認識の共有を図っている。なお、出産・病気などの家庭事情による保育時間の変更や保護者の就労等による延長保育の利用にも柔軟に対応するなど、個別の保護者支援にもあたっている。</p> <p>虐待防止に向け、マニュアル等の活用や職員の啓発、関係機関との連携に取り組んでいる</p> <p>虐待防止に向け、「BBハンドブック」に早期対応について記載するほか、朝の受け入れ時の視診から傷や衣服の乱れなど虐待の予兆を把握するようにしたり、多摩市の「子どもの虐待対応マニュアル」も活用するなどして早期発見の徹底を図っている。疑いがある場合には関係機関に速やかに通告する仕組みとしており、職員の虐待に関する研修参加と報告による成果共有、関係機関との合同のケース会議を通じた連携など、仕組みは整えられているが、園独自のマニュアル整備や記録様式については課題と認識しており、今後のさらなる取組が期待される。</p>

5-1. 子どものプライバシー保護を徹底している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている ○ 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	

5-2. サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している ○ 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている ○ 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている ○ 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している ○ 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

事業所業務の標準化

講評
<p>「BBハンドブック」などの整備やリーダー層の指導による業務水準の確保に努めている</p> <p>法人系列園共通の職員が守るべき倫理規範等を明示した「BBハンドブック」「保健マニュアル」を整備し、非常勤を含む全職員に配付するほか、事務室や各クラスに常備して、いつでも活用できるようにしている。常勤職員には法人が入職前研修を実施、勤務開始後も年度当初の職員会議で全職員による「BBハンドブック」等の確認を行い、内容の浸透を図って現場での徹底につなげるほか、日常の保育ではクラスリーダーが適宜助言し、クラス会議で必要に応じて副園長が指導を行っている。非常勤職員や年度途中の入職者への教育体制の充実を課題としている。</p> <p>職員の気づきや保護者の意向を業務等の改善に反映している</p> <p>業務等の見直しにあたっては、保護者の意向や職員の意見を参考にして主に年度末に行っている。今年度は次年度からの全年齢受け入れ開始に備え、今まで「おおきな家」と共通で使用していた「入園のしおり」等を個別化した。また他園を見学した際の職員の気づきをもとに、写真を活用した壁新聞によって日々の活動を保護者にわかりやすく伝える工夫をしたり、新園舎の進捗状況を知りたいとの要望で玄関に「新園舎の進捗状況」ファイルを設置するほか、パスワードによるブログの閲覧制限など、保護者の意向を園運営の改善に反映している。</p> <p>安全衛生委員会が中心となって、園内外の安全確保に取り組んでいる</p> <p>園長・副園長や各職域(乳児・調理・保健)の代表で構成される「安全衛生委員会」が中心となり、さまざまな取組によって園内外の安全を確保した保育提供に努めている。「自主検査チェック表」「園庭チェックリスト」による園内・園庭の安全確認を行うほか、「安全管理点検票」に基づいた園内の危険箇所などを副園長が月1回確認している。また毎月実施される避難訓練の反省で防災頭巾の保管場所の変更をするほか、「事故防止チェックリスト」による各クラスの点検からの気づきをもとに、拭き掃除の徹底に取り組むなど、安全確保につなげている。</p>

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している ○ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
事業者が特に力を入れている取り組み	

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

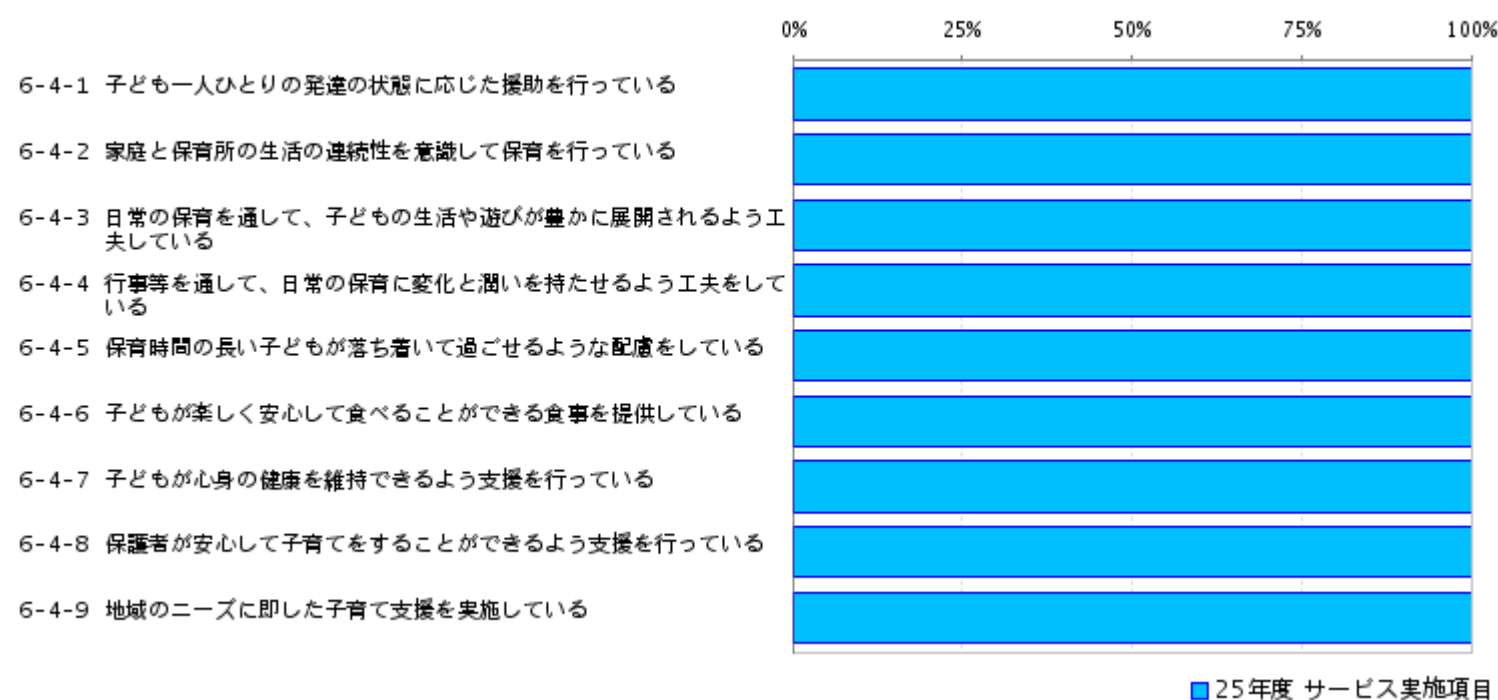
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている ○ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	<p>★ 保育を題材に職員同士で話し合い、新たな発想や意欲向上につなげる取組を行っている</p> <p>系列の「おおきな家」と各クラス合同で行う半期ごとに保育の振り返りで保育実践に関する話し合いを行い、組織的な質の向上を図っている。あらかじめ日常の保育場面でのエピソードなどを綴った報告書を配付し、各クラスから感想を寄せる形で全体の共有を図るとともに、画像も素材として年齢や職種に関わりなく話し合うことで、認識の深まりや気づきにつなげている。また「エピソードの会」を年間複数回実施し、日頃の保育での場面・エピソードを担当者が資料とともに紹介し、感想を述べ合うことで、新たな気づきや発想を促す取組としている。</p>

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている ○ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している ○ 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている ○ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している ○ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
事業者が特に力を入れている取り組み	

サービスの実施

25年度 サービス実施項目



1. 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている

講評	<p>子どもの全体的な姿を把握して、子どもの意欲や発想を尊重している</p> <p>一人ひとりの子どもの姿について、全職員が子どもを多面的に理解をする視点の共有を図り、子どもの行動や思いなどについて保育会議等で意見交換をするなど、一人ひとりの子どもの育ちを園全体で見守りながら、子どもそれぞれが持つ育ちのペースを尊重した関わりを大切にしている。子どもの言葉を一つひとつ汲み取って遊びに発展をさせたり、園内外の遊びや表現活動を通して子どもの思いを柔軟にとらえ、子どもが持っている力をのびのびと発揮できるような保育を大切にしている。</p> <p>子どもが主体的に活動できる環境構成の工夫が行われている</p> <p>保育室内は子どもがゆったりとした心で過ごせるよう配慮して環境が整備され、発達を考慮した玩具が取り出しやすい位置に置かれ、子どもが自主的・自発的に遊び込める環境となっている。定期的に環境の見直しも行われており、清潔で安全な空間の中で自分でしようとする意欲を培う工夫や配慮がなされている。草木に囲まれた園庭では異年齢で遊ぶことのできる機会が活発に持たれ、小集団ならではの保育が展開され、それぞれが主体的に活動を選び、さまざまに遊べる環境を整えている。</p> <p>配慮の必要な子への支援や子ども同士のトラブルへの適切な対応に努めている</p> <p>特別な配慮が必要な子や気になる子については療育施設の巡回相談が行われ、専門家のアドバイスをもとに職員が情報共有を図り、全職員がじっくり見守り、関わりを検討しながら育ちの支援をしている。発達の過程で生じる子ども同士のトラブルについては、双方の気持ちを受けとめることを大切にしたいと、個別に話をし、気持ちを落ち着かせている。個々のトラブルが続く場合は環境の見直しについても職員間で話し合い、子どもが快適で安心して過ごせる環境を整える工夫をしている。</p>
-----------	---

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している ○ 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している ○ 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している ○ 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ○ 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
事業者が特に力を入れている取り組み	

2. 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている

講評	<p>家庭と園との連携を大切に子どもを育ちを共有している</p> <p>登園時には「登降園記録簿」に登園までの家庭での子どもの様子(食事・排せつ・睡眠等)を記入してもらい、可能な限り直接職員が口頭で子どもの変化を聞き取りながら、保護者と子どものやり取りなどを通して家庭での様子を把握するように心がけている。「子育てノート(連絡帳)」には子どもの様子だけでなく、保護者との会話のコミュニケーションツールとして活用してもらい、年度初めの懇談会で説明をしている。記入が苦手な保護者へは簡単な質問などをして会話につながるような配慮をし、関わり合いを大切にしている。</p> <p>身辺自立に向けたさまざまな環境の配慮と関わりが行われている</p> <p>トイレトレーニングは集団で促すことなく、月齢や個々の体の機能の状況を判断しつつ保護者と連携を図りながら進めている。トイレは日当たりに配慮した環境で子どもの好きな絵本の一場面の絵を貼り、子どもが緊張せず、快適さを感じられる設えとしている。0・1歳児は一日の生活は緩やかな担当制として保育者との愛着が深まるようにし、2歳以上児では小集団で食事や着脱などに</p>
-----------	--

関わられるような工夫がある。食事中の食具の持ち方や椅子の座り方、着脱などでも個々に声をかけながら丁寧に接し、気持ちを受けとめて自発的な取組を促す配慮が行われている。

快適な保育環境の中で、安全な休息時間が図られている

寝・食分離がされた保育室内の環境の中で、子どもが安心して眠れるように顔の表情が見えるくらいの明るさに配慮がなされ、子どもの活動や保護者の要望に応じた午睡時間の設定がされている。気温に応じて室温はこまめに計り、保育室内の温度が一定になるようにしている。0歳児は呼吸と状態を10分おきに確認し、SIDSの予防に努めている。体調や発達に応じて午前寝をすることもあり、子どもの生活リズムを整え、生活のメリハリをつけて体調管理に気を配っている。

標準項目	○ 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
	○ 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている
	○ 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
	○ お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み	<p>★ 保護者との情報交流に工夫を凝らし、家庭との共通理解のもとで保育を提供している</p> <p>家庭と園との連続性を大切に考え、登降園時にはできる限り直接会話で伝え合うほか、「子育てノート(連絡帳)」を活用している。保育者は子どもの代弁者であると考え、子どもの状況や思いを詳しく伝えとともに、保護者との会話を通して子育てや日頃の悩みなどを受けとめ、園と家庭との相互作用によって子どもの育ちを促したいと考えている。日中の子どもの活動はコメントを入れた写真の壁新聞でも伝えており、過去の様子はファイリングされ、いつでも閲覧できるよう配慮され、さまざまな方法で子どもの様子を伝え、保護者との信頼関係を築いている。</p>

3. 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

講評
<p>「バオバブの保育が目指すもの」の実践を目指して保育が展開されている</p> <p>「バオバブの保育が目指すもの(保育理念)」を基本に過度な行事にとられることなく、子どもの何気ない日々の暮らしを大切にして日常生活の中でのさまざまな体験を活かし、個々の発達のペースを尊重をしたうえで関わりを大切に保育展開が行われている。戸外遊びや玩具、さまざまな表現活動やごっこ遊びなどを通して、個々の育ちとともに子ども同士のつながりも育つような保育を目指し、子どもの成長発達を促している。</p> <p>子どもの自発的な遊びができる環境を整え、さまざまな玩具を提供している</p> <p>0歳児後半には保護者が手作りをした「わたしの絵本」、1歳児後半には「わたしの人形」など、保護者協力のもと作成された手作り品を通して子どもが愛着を持ち、親しみや安心感をもって過ごし、遊べるような取組がある。子どもが個々に玩具に集中して遊びこんだり、ブロックやレールなど一つの玩具を子ども同士で関わりながら遊ぶ姿を見守り、保育者同士が連携を取り合いながら、部屋を共有したり、連続性の遊びを保障するような時間や環境の工夫をした生活を重視するなどの配慮がなされている。</p> <p>子どもが季節感を感じ取れるような声かけや関わりを大切にしている</p> <p>鬼ごっこやままごとなど、小集団ながらも子どもが無理なく集団に興味を持ち関われるように、様子を見ながら声かけをしても遊び楽しさを伝えている。園庭は四季を感じられる自然物があり、木の葉や実、昆虫や鳥の鳴き声など、小さな発見や変化を見逃さないように声をかけ、時には手で触れながら五感を通して四季を感じている。野菜の栽培や夏のプール遊び・泥んこ遊び、秋には散歩に出かけて季節の花を見たり、土手滑りを楽しんだり、子どもが全身で体感をして、基礎体力をつけ、五感を刺激しながら感性を培えるような保育に取り組んでいる。</p>

標準項目	○ 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている
	○ 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
	○ 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
	○ 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
事業者が特に力を入れている取り組み	

4. 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている

講評
<p>日常の活動の延長として、古来の季節行事や親子で楽しめる種々の行事を設けている</p> <p>行事を特別な催しとせず、七夕・十五夜・節分・ひな祭り等の日本ならではの伝統的な行事を日常生活に織り込みながら、子どもが自然と体験できるような装飾や簡単な制作物、または食事などを工夫している。「プレイデー(運動会)」は系列園と合同で開催され、親子で楽しむ競技を主としている。0歳児は親子でわらべ歌を歌ったり、1・2歳児は鬼ごっこやしっぽ取りなどのゲームを親子ともに楽しめるような内容とし、これら行事を進めるにあたってはねらいと子どもの姿がかけ離れないよう、子どもを主体とし、無理なく行うことを大切にしている。</p> <p>発達に応じて表現に親しんだり、保護者や地域と楽しく関われる行事を開催している</p> <p>職員が主体となり、子どもの好きな歌を歌ったり、簡単な楽器を通して音楽を楽しみ、日常生活に適度な変化を持たせられるように「ミニ音楽会」を開催している。子どもがともに口ずさんだり体を揺らしながら、子どもと職員と一緒に音楽を楽しめる時間を提供している。系列園との合同での「バオバブフェスタ」では地域にも参加を呼びかけながら、主に保護者が中心となり、各クラスでお</p>

店を催したり、バザーなどが開かれ、保護者同士が協力し合い、楽しみながら取り組める行事としている。

さまざまな人との交流を子どもの体験と成長につなげることを大切にしている

年度当初の保護者会にて年間行事についての説明がなされ、各行事内容やねらい等についてはお便り等で事前にお知らせをして、理解や協力を得ている。行事参加だけでなく、中学生の職場体験やボランティアの受け入れなどの機会を利用して、職員以外の人との交流を積極的に行い、子どもがさまざまな人とのふれ合いを通じて体験や学びを得られるよう配慮しながら保育を行うことを大切にしている。

標準項目	○ みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している
	○ 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している
	○ 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている
	○ 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している
事業者が特に力を入れている取り組み	

5. 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

講評
<p>長時間の保育においてもメリハリを持てる活動の工夫を行っている</p> <p>各保育室とも玩具は取り出しやすい場所に置かれ、子どもが自由に選べる環境が用意されるほか、園庭や廊下の巧技台・マットなどで遊んだり、別の部屋へ移動して気分転換を図ることで、長時間を過ごす子どもの個々の配慮が行われている。朝・夕の延長時間帯は一つの部屋で合同で過ごしており、木製のサークルが設置され、月齢の低い子どもが安全に過ごす場所としたり、年齢の高い子どもがブロック遊びなど集中して遊びたい様子が見られた時に使用するなど、子どもの活動の様子を見て使い分けられるような工夫が行われている。</p> <p>異年齢での関わりが日常的に行われ、年上・年下の交流が成長を促している</p> <p>異年齢で過ごす延長時間帯は、玩具を通して子ども同士が自然と関われるようになっており、年齢の高い子が絵本を読んであげたり、玩具の貸し借りの姿などが見られている。月齢の低い子どもが泣いている時は、近くに寄り添いあやしている姿がある。日常的に異年齢での関わりが行われることで、年齢相互の育ち合いにもつなげている。</p> <p>職員間の連携の仕組みを整え、保護者への伝達が円滑に行えるよう工夫している</p> <p>毎日、各クラスの代表者が出席をして 10 分間ミーティングが行われ、子どもの変化や保護者への伝達事項などを共有する場となっている。出席できない職員には口頭での確実な伝達に努め、すべての職員が把握できるような仕組みがある。日中の子どもの様子は「子育てノート」にて詳しく伝えるほか、口頭で伝えるべきことは担任が居残り直接伝えている。保護者以外のお迎えが続く場合は電話でも知らせるようにするなど、なるべく対話を通して園と家庭との連携をとり、子どもの育ちの大切さを共有し合っている。</p>

標準項目	○ 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている
	○ 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている
	○ 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる
	○ お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

6. 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

講評
<p>一人ひとりの子どもが食事を楽しめる工夫や献立の充実に取り組んでいる</p> <p>一人ひとりの子どもが楽しく無理のないように食事が摂れる工夫として、登園時間や生活サイクル、個々の体調に応じて、小グループごとに食事の時間をずらし、食事の準備ができた子どもから目の前で配膳をして食事を開始している。配膳をしながら献立名や食材などを知らせたり、個々に量の調整をするなど、子どもの嗜好や体調の変化を把握している。献立会議では子どもの喫食状況を把握するほかに、苦手な食材を克服できるような盛りつけやクッキングのお手伝いなどを提案して検討する機会としている。</p> <p>食の安全やメニューの充実を図り、保護者への啓発にも取り組んでいる</p> <p>食材は最大限安全に配慮したものを使用し、旬の野菜や果物を採り入れ、手作りを基本としている。和食中心にしてだしを献立内容に応じて使い分けて、野菜本来の味を損なわないように薄味に努めている。献立は2週間のサイクルメニューとし、残食が多い時は天候や子どもの健康状態を踏まえた上で味付けを変えるなどして、次回への提供に活かしている。米や大豆などの生産者とのつながりも大切にし、生産者の顔写真や生産工程の説明写真が壁に掲示され、保護者にも食の意識を高めてもらう取組をしている。</p> <p>保護者に日々の食事の模様を伝え、子どもの期待感を高める工夫もなされている</p> <p>調理室からは「調理室だより」を通して、保護者へのメッセージや献立のヒントなどを発信して理解を深めている。玄関には展示食が置かれ、レシピや栄養士から伝えたいこととして、ダイジェストが定期的に掲示されている。調理室入口には子どもとの会話が交わされるようなスペースがあり、子どもが興味をもって覗いている様子が見られたほか、菜園で採れた野菜を直接運ぶこともできるよ</p>

うになっている。子どもがにおいや湯気を体で感じることで、食を心待ちにして食への積極的な意欲につながるような配慮をしている。

標準項目	○	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している
	○	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている
	○	子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している
	○	食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている
	○	保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている
事業者が特に力を入れている取り組み		

7. 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている

講評
<p>日常保育で子どもの意識づけや衛生環境の整備を行い、ケガや感染症の予防に努めている</p> <p>散歩前には子どもに必ず約束事を伝えてから出かけている。散歩途中や散歩先の公園で発見した危険物・箇所は昼ミーティングで共有して注意するほか、毎月1回行われる安全衛生委員会でも報告され、対応策の検討がなされている。概ね1歳児頃から手洗いを励行するなど、日々の保育の中で感染症を予防できるようにしている。また、各クラスには空気清浄器が設置されるほか、保育終了後には専用機器による消毒を每晚実施してクラスの衛生管理の徹底を図り、常に衛生的な環境整備に努めている。</p> <p>日々の子どもの健康状態の把握に努め、嘱託医と連携して健康管理を行っている</p> <p>日々の子どもの健康状態については、登園時の保護者との会話や連絡帳によって確認するとともに、担任の視診等によってさまざまに把握し、必要に応じて昼ミーティングで情報を共有している。子どもの急な体調変化の時には、全職員に配付されている「BBハンドブック」や安全衛生・保健関連のマニュアルに基づいて対応することとなっている。健康診断・歯科検診は全園児年2回実施して子どもの健康状態を把握するほか、嘱託医とは入園時の保護者向け講座「健康について」の開催や毎月の乳児健診や健康相談など、連携ができる体制を整えている。</p> <p>感染症等の保健情報を発信して、発生予防や蔓延防止などに努めている</p> <p>感染症の発生時には発生状況を各クラスの入口に掲示したり、臨時の保健便りを発行して保護者の注意を促して蔓延予防に努めている。毎月発行する保健便りでは季節に応じた感染症や健康上の注意事項などを保護者に伝えるほか、行政からの保健情報やセミナーの情報を掲示するなどして、保護者への保健に関する啓発に努めている。SIDS予防に向けて入園時に保健情報の一つとして説明しているほか、入園後の0歳児クラス懇談会でも伝えており、日常の保育においては睡眠時の呼吸などについて、0歳児に10分間隔で確認を行っている。</p>

標準項目	○	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている
	○	医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている
	○	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている
事業者が特に力を入れている取り組み		

8. 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

講評
<p>園の思い「集団一律ではない、個々の状況に応じた支援」の実現に向けて取り組んでいる</p> <p>個々の保護者の要望や家庭状況等は入園前の個人面談で把握するとともに、入園後は年1~2回行われる個人面談や日々の保護者との会話のほか、連絡帳等で把握できるように努めている。個人面談については保護者の希望に応じて随時の受付もしており、必要に応じて園からも申し入れて行っている。また、保護者の就労に配慮して懇談会を夜に実施するほか、出産・病気などの保護者の状況に応じて、保育時間の変更や急な延長保育の利用などにも柔軟に対応している。</p> <p>保護者と交流するさまざまな機会を設けて共通理解形成に努めている</p> <p>懇談会や保育参加など保護者との交流機会を通じ、園の取組等についての共通理解に努めている。保育参加は年間を通じ保護者の都合に応じて随時受け付け、給食も試食できるようにしている。また保護者と協働して園設備のメンテナンスやぬいぐるみの制作を行う「ワークショップ」を開催するほか、年度当初のクラス懇談会では年間テーマやクラス目標、年齢ごとの発達の特徴や保育内容を伝えている。週2回程度更新する園のブログのほか、今年度から壁新聞を写真を活用したカラー刷りとするなど、日々の様子を保護者にわかりやすく伝えるようにしている。</p> <p>アンケート等によって保護者の意向を把握し、業務の改善に活かしている</p> <p>さまざまな機会を通じて把握した保護者の意向を業務の見直しや改善に活かすことに努めている。園内に「何でもご意見箱」を設置して、匿名の意見や苦情を受け付けたり、毎年の利用者調査や「ワークショップ」でのアンケートのほか、クラス懇談会でも意向の傾聴に取り組み、新園舎の進捗状況のファイルを玄関に設置したり、ブログのパスワードによる閲覧制限などの改善につなげている。またアンケート結果に対する園の対応についても、園便りや書面によって保護者に配付することで、安心や信頼につなげている。</p>

標準項目	○	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している
	○	保護者同士が交流できる機会を設けている

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	

9. 地域のニーズに即した子育て支援を実施している

講評
<p>親子サロン「びーだま」が地域の子育て世帯のコミュニティとなっている</p> <p>親子広場「ブレーメン」等の取組を「おおきな家」と協働しているほか、当園独自でも親子サロン「びーだま」と一時保育を行っている。親子サロン「びーだま」ではいつ来て、いつ帰ってもよい、親子が安心して遊び、交流できる空間として、週4日10時半から15時半までの間で園の一室を開放し、登録者約320世帯、延べ利用者数約5,600名の子育て世帯のコミュニティとして幅広いつながりが形成されている。次年度の園舎移転に伴い、実施場所の確保が困難となっているが、利用者からの継続を望む声も高く、検討課題としている。</p> <p>地域委員会が報告を取りまとめ、両園の合同職員会議で活動方針を策定している</p> <p>地域子育て支援の具体的な実施計画や評価反省については運営を委託されているサークル「さくらんぼ(びーだまスタッフ)」によって行われている。計画検討や評価反省が行われる「びーだま委員会」での報告に関しては、地域支援担当による「地域委員会」が取りまとめている。最終的に年間センター事業報告として両園に伝えられ、合同職員会議において次年度の活動方針等が検討される仕組みとなっている。個々の事業の実施計画について書式を定め、立案や実施管理に活かしていくことを課題としている。</p>

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている
事業者が特に力を入れている取り組み	

利用者調査結果

調査概要

<ul style="list-style-type: none"> ● 調査対象: 調査開始時点での本園の利用世帯31を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。 ● 調査方法: アンケート方式 <p>調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。</p> <p>回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者総数: 31人 ● 共通評価項目による調査対象者数: 31人 ● 共通評価項目による調査の有効回答者数: 18人 ● 利用者総数に対する回答者割合(%): 58.1%

調査結果全体のコメント

<p>総合的な感想として、園に対する満足度は「大変満足」50.0%・「満足」50.0%の計100%と高い値を得ており、設問別では「急な残業等への配慮」「保護者との信頼関係」「子どもが大切にされている」「職員の対応」など全15問中12問で80%台～100%の高い支持を得ている。自由意見では「子どものことだけでなく家族のことも気にかけて、どんなに忙しい時間でも丁寧に対応してくれる」「食う・寝る・遊ぶをしっかりとしてもらい、子どもは毎日保育園でのびのびと生活している」「職員の方々が皆とても明るく感じがいいので、安心して働くことができる」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては子どもの様子の報告・説明、衛生管理に関することなどが見られた。</p>

調査結果

1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	16人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
<p>選択の割合(「無回答・非該当」を除く・以下同)は、「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が5.9%となっている。自由意見は6件で、「保育参加の際に調理の方から話を聞いたり実際に味見をして、味付け・切り方・硬さなど工夫されていることを知ることができた」「園内で作って焼いているパンを出してくれたり、手作りのお昼とおやつでありがたい」「薄味だけどおいしく、種類も多くてとてもいい」などのほか、食事の提供量等のさらなる説明に関する意見があった。</p>							
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか							
はい	16人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
<p>「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。自由意見は4件で、「毎日、自然の中で遊ばせてもらっている」「どろ遊びや水遊びなどをよくしてくれて嬉しい」のほか、散歩のさら</p>							

なる充実を望む声があった。							
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか							
はい	14人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
有効回答者 14 人全員 (100%) が「はい」と答えている。自由意見は「急な残業の連絡をした時に快く受けてくれて助かる」「快く対応してくれて本当に感謝している」など全て肯定的な意見が 3 件あった。							
4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か							
はい	16人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が 88.9%、「どちらともいえない」が 11.1%となっている。自由意見は「降園時に病院に寄れるように、早めに連絡をしてくれた」の 1 件があった。							
5. 安全対策が十分取られていると思うか							
はい	12人	どちらともいえない	6人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が 66.7%、「どちらともいえない」が 33.3%となっている。自由意見は 3 件で、「やぐらや土の丘、階段など、いい意味で遊具等にはスリルがあるように思う」のほか、保育中の安全管理について、気になる点が挙げられている。							
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か							
はい	15人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が 83.3%、「どちらともいえない」が 16.7%となっている。自由意見は「保護者会を夕方以降にしてくれる」の 1 件があった。							
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか							
はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
有効回答者 18 人全員 (100%) が「はい」と答えている。自由意見は「連絡ノートに悩みを書くと、あたたかい返事がありホッとす」「小さな愚痴も聞いてくれる」の 2 件があった。							
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか							
はい	16人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
「はい」が 94.1%、「どちらともいえない」が 5.9%となっている。自由意見は 3 件で、「送り迎えのわずかな時間や個別面談でよく話を聞いてくれる」のほか、職員とのコミュニケーション機会のさらなる充実を望む声があったが、実数値からは満足を得ていることがうかがえる。							
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか							
はい	13人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	3人
「はい」が 86.7%、「どちらともいえない」が 13.3%となっている。自由意見には記入がなかった。							
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか							
はい	17人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が 94.4%、「どちらともいえない」が 5.6%となっている。自由意見は「担任ではない職員も名前を覚えてくれる」の 1 件があった。							
11. 職員の対応は丁寧か							
はい	17人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が 94.4%、「どちらともいえない」が 5.6%となっている。自由意見は「とてもアットホームで、皆さん本当に明るく優しい方々ばかり」「職員は優しく心地よくそして厳しく温かく接してくれ、子どもが好きなことが見てわかる」の 2 件があった。							
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか							
はい	12人	どちらともいえない	3人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人
「はい」が 75.0%、「どちらともいえない」が 18.8%、「いいえ」が 6.3%となっている。自由意見には記入がなかった。							
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか							
はい	13人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
「はい」が 92.9%、「どちらともいえない」が 7.1%となっている。自由意見は 1 件で、要望等への対応に関する説明について意見があったが、実数値からは高い満足を得ていると考えられる。							
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか							
はい	14人	どちらともいえない	2人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
「はい」が 77.8%、「どちらともいえない」が 11.1%、「いいえ」が 11.1%となっている。自由意見には記入がなかった。							
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】							
サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか							
はい	5人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
該当者 6 人のうち 5 人 (83.3%) が「はい」と答えている。自由意見は「持ち物の細かい説明もしてくれた」「とても長かったので子どもがみんなグズっていたが、丁寧でよかった」の 2 件があった。							

事業者のコメント

--

